

論文審査の要旨

報告番号	修 第 1327 号	氏 名	百 石 仁 美
論文審査担当者	主査 教授 加 藤 京 一		
	副査 準教授 大 崎 千 恵 子		
	副査 準教授 俵 積 田 ゆ か り		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究について以下のような内容で発表され、その後質疑応答となった。</p> <p>「今回の研究では「心臓カテーテルアブレーション治療患者の IVR 室占拠時間短縮に向けた取り組み」について検討を行なった。A 病院において、未経験者、既存の熟練した技能を持つ看護師（以下熟練者）それぞれに教育を行った。また、効率的な運用のため病棟と連携し申し送りや搬送方法の見直し、IVR 室ではリカバリールームを設置し業務分担を行なった。本研究では、IVR 室占拠時間の短縮に向けて実施した①教育②連携③業務分担の 3 つの取り組みの効果を実証した。結論として、人員配置の変更により未経験者が多くなった組織に教育を行い、標準的な治療介助ができる組織へと成長することができた。また、効率的な運用のため病棟と連携し申し送りや搬送方法の見直しの取り組みにより ABL 開始遅延を改善することができた。また、リカバリールームの増設とリカバリーナースの配置により、安全性を担保しながら患者の入替インターバル時間の減少と IVR 室の占拠時間を減少することができた。」と報告された。</p> <p>質疑応答</p> <p>主な質問について下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組み内容の詳細について答えよ。→申し送り確認シート（専用ツール）の作成と徹底を行なった。 2. 介助に入る看護師の育成はどのように取り組んだか→ライセンス性の導入を行なった。 3. 占拠時間の短縮要因は何か→教育、連携、業務分担が大きな要因であった。 <p>以上論文審査において、報告、質疑応答を行い、終了とした。</p>			